



イエイリ建設ITラボ



プレスリリースなどはこちらまで >> ✉

検索

プロフィール

[ユビキタス・アイ](#)
[マンスリー・レポート](#)
[建設IT実践隊](#)
[ケースレポート](#)
[キーワード](#)
[建設3次元まつり](#)

トップ

▼ マンスリー・レポート

3次元CADでコラボも！「製図板のない建築設計教育」を実践 【第1回】「製図板のない建築設計教育」はどのように始まったか

芝浦工業大学の衣袋(いたい)洋一教授は、「製図板のない建築設計教育」をキャッチフレーズに、3次元CADやコンピュータグラフィックス(CG)を駆使した教育に力を入れてきました。現在では、120台のパソコンを備えたCAD教室のほか、Revit Architecture、Bentley Architecture、ArchiCADなどのビルディング・インフォメーション・モデリング(BIM)対応ソフトを活用したコラボレーションの実習も行っています。大学におけるCAD教育の現状をお聞きしました。



芝浦工業大学
システム工学部環境システム学科
教授

衣袋 洋一 氏

衣袋研究室のホームページ
<http://www.itailab.se.shibaura-it.ac.jp/>

——衣袋先生はどのようなきっかけで大学でのCAD教育を行われるようになったのですか。

衣袋 建築出身の私は、もともと、「コンピュータ反対派」だったんですよ。それが20年前くらいにある教え子の追悼論集を出すことになり、NECのPC88やPC98を使って「単漢変換」で入力した文章を、紙に出力して「切り張り」して作ったのが、コンピュータを使うきっかけでした。

一度、やり始めると、とことんやらないと気が済まない性格なので、「ダイナパース」という都市計画用のCADを使ったり、UNIXによるプログラミングの勉強をしたり、コンピューター1台でどんなことができるのかを、いろいろと試しました。

以前は研究者自身がソフトを作り、解析を行って論文を書くというのが普通でしたが、ちょうどそのころ、「研究者はソフトを作らず、スーパーユーザーに徹した方がいい」という考えに変わっていった時期でした。

17年前にシステム工学部ができたとき、恩師・石川洋美名誉教授に「新しい学科でコンピュータによる建築教育をやってみたらどうか」と勧められたのをきっかけに、本格的にCAD教育を実践する立場になりました。



——当時はどんなCADやコンピュータの授業を行っていたのですか。

衣袋 キャッチフレーズは「製図板のない建築設計教育」というものでした。校舎の5階にCAD室を設け、構造システムのDRA-CADを導入しました。また、1年生の教育にはマッキントッシュも使いました。当時、マックは素人向けのパソコンというイメージが強かったので、「工学系なのに遊び道具を買うな」なんて、大学からは怒られたりしましたが。(笑)

1年生にはコンピュータによる情報処理に慣れさせるために、描画ソフトを使って町や建築物の絵を描かせたりしました。また、データベースソフトを使った実習も行いました。これらのソフトは、マックに標準で付属していたものです。2年生になると、DRA-CAD

を使ったCADの基本操作の授業を行いました。



——「製図板のない建築設計」とは画期的なフレーズですね。研究室ではどんなテーマに取り組んでおられたのでしょうか。

衣袋 研究室での卒業研究レベルになると、アニメーションやウォークスルーも作成しました。PC98でモデリングを行い、16ビットのUNIXマシンに64ビットのデータコンバータを搭載したハードに、「VPX」というアニメーション作成ソフトを使用しました。これで、卒業設計の作品説明やプレゼンテーションを行ったりしたのです。

卒業生の紹介で、外部からの委託業務も請け負ったりもしました。例えば、つくば市で行われた国際会議に使うアニメーションを3か月で作成するような仕事です。料金は格安でしたが。

建築とアニメーションは非常に深い関係があると思います。Aという抽象的なデザインから出発して、どのような要素が集合し、Bという建築の設計に結実していったかというプロセスを、知識として表現できるのがアニメだからです。



(次回は12月10日に掲載します)

2007年12月03日 00:00 | [パーマリンク](#)

トラックバック

このエントリーのトラックバックURL:

<http://blog.nikkeibp.co.jp/cgi-bin/mt/mt-tb.cgi/153332>

コメントを投稿

(いままで、ここでコメントしたことがないときは、コメントを表示する前にこのブログのオーナーの承認が必要になることがあります。承認されるまではコメントは表示されません。そのときはしばらく待ってください。)

名前:

メールアドレス:

URL:

この情報を登録しますか?

コメント: (スタイル用のHTMLタグが使えます)



イエイリ建設ITラボ



プレスリリースなどはこちらまで >> ✉

検索

プロフィール

ユビキタス・アイ マンスリー・レポート 建設IT実験隊 ケースレポート キーワード 建設3次元まつり

トップ

▼ マンスリー・レポート

3次元CADでコラボも！「製図板のない建築設計教育」を实践
【第2回】BIM時代に対応できるIT教育体制づくり

芝浦工業大学の衣袋(いたい)洋一教授は、「製図板のない建築設計教育」をキャッチフレーズに、3次元CADやコンピュータグラフィックス(CG)を駆使した教育に力を入れてきました。現在では、120台のパソコンを備えたCAD教室のほか、Revit Architecture、Bentley Architecture、ArchiCADなどのビルディング・インフォメーション・モデリング(BIM)対応ソフトを活用したコラボレーションの実習も行っています。大学におけるCAD教育の現状をお聞きました。



芝浦工業大学
システム工学部環境システム学科
教授

衣袋 洋一 氏

衣袋研究室のホームページ
<http://www.itailab.se.shibaura-it.ac.jp/>

——授業で使うハード、ソフトとしてはどんな環境が用意されているのでしょうか。

衣袋 ソフトについては、教室や研究室、自宅などで学生が好きなだけ使える環境を整備しています。

例えば、建築関係のCADソフトとしては、汎用CADのほか、ビルディング・インフォメーション・モデリング(BIM)にも対応できる3次元CADとしてオートデスクの「AutoCAD Revit Architecture」やベントレー・システムズの「Bentley Architecture」、グラフィソフトの「ArchiCAD」などがあります。

また、マイクロソフトやオートデスク、グラフィソフトなどは芝浦工業大学の教員や学生が自由に使える「サイトライセンス契約」を行っていますので、これらのメーカーのソフトは好きなものを好きなだけ使えるようになっています。



●芝浦工業大学が建築教育用に用意しているソフトの例

メーカー名	ソフト名
	・AutoCAD
	・Autodesk DWF Composer
	・Autodesk Inventor Professional
	・AutoCAD Electrical
オートデスク	・Autodesk AutoCAD Revit Series
	・Autodesk Architectural Desktop
	・Autodesk Civil 3D
	・Autodesk Map 3D
	・Autodesk Raster Design
	・MicroStation
	・Bentley Navigator

- Bentley Architecture
- Bentley HVAC
- Bentley Structural
- MicroStation TriForma
- GEOPAK Civil Engineering Suite
- InRoads
- InRoads Storm& Sanitary
- InRoads Site
- InRoads Bridge
- ベントレー・システムズ
 - InRail
 - InRoads Survey
 - MicroStation GeoGraphics
 - Bentley Descartes
 - Bentley I/RAS B
 - AutoPIPE Plus
 - AutoPLANT P&ID
 - AutoPLANT Structural Detailer
 - Bentley Data Manager
 - Bentley Datasheets
- グラフィソフト
 - ArchiCAD 学生版
 - Office Enterprise 2007
 - Windows 98
 - Windows Millennium Edition (Windows Me)
- マイクロソフト
 - Windows NT Workstation 4.0 (IME98、SP4)
 - Windows 2000 Professional
 - Windows XP Professional
 - WindowsVista Business(DVD)
 - WindowsVista Enterprise(DVD)

——授業で使うパソコンは何台くらいあるのですか。

衣袋 CAD教室には120台のパソコンが置いてあるほか、情報処理教室にも120台、2つずつある情報処理演習室、プログラミング教室合わせて、合計584台のパソコンがあります。

CAD教室では学生1人につきモニターと本体が1台ずつあり、2人の学生の間に先生が操作した画面を表示するモニターがさらに1台あります。本体にはそれぞれDVDマルチドライブが搭載されています。このほか教室には、A4判のカラーキャナーが16台、カラープリンタが2台、書画カメラとDVDプレーヤーが1台ずつ用意されています。

大きな図面の入出力には、入出力室に大判カラープリンタが3台、大判カラーキャナーが1台用意されています。



●CAD教室に用意されているパソコン機器の例

ハード名と仕様	台数
HP COMPAQ dc7600SF/CT (Pentium4 650(3.40GHz,2MB L2 cache)/1GB、160GB SATAII HDD/48×CD/FDDVI-ADD2(PCI-E)/Firewire/NIC、日本語109Aキーボード (USB)/WinXP Pro	120台
SHARP 17型液晶ディスプレイ	120台
DVDマルチドライブ(USB 2.0)	120台
1.3GB MOドライブ(USB 2.0)	一部
Microsoft Intellimouse Explorer(USB)	120個
OS: WindowsXP / Vine Linux	
EPSON GT-X750 A4カラーキャナ	16台
FujiXerox DocuPrint C3540 カラープリンタ (画面提示システム)	2台
SHARP 17型液晶ディスプレイ	57台
高精細RGB書画カメラ HV-770SX	1台

業務用S-VHSビデオ一体型DVDビデオレコーダー 1台
SR-MV30

——これだけのパソコン機材が用意されているとは驚きです。さぞかし相当な費用がかかったでしょう。

衣袋 はい、ですからできるだけ低コストで機材を調達することを心がけました。その方法とは、パソコンの機種やメーカーを指定せず、CPUやメモリ、DVDドライブなどの仕様や数量だけを指定して、入札を行ったのです。

その結果、シャープが落札したのですが、同社の製品はモニターだけ。パソコン本体やデスク、プリンタやスキャナーは、全部他のメーカーの製品を組み合わせて、安く調達することができました。



(次回は12月17日に掲載します)

2007年12月10日 00:00 | パーマリンク

トラックバック

このエントリーのトラックバックURL:
<http://blog.nikkeibp.co.jp/cgi-bin/mt/mt-tb.cgi/153483>

コメント

学生の時から多くのソフトとハード環境を体験できる事はとても素晴らしいと思います。社会に出るとなかなか多くを体験する機会もなく、個人ではコスト面が厳しく学習も出来ないのが現状です。

CADと製図版/ドラフターの位置付け等も今後の話の中で出てくるのではないかと、期待しております。ちなみに新人時代に、芝工の先輩にドラフターで製図の極意を覚えてもらった事があり、違った意味で親近感を覚え、次回が楽しみです。

投稿者: kaz | 2007年12月11日 11:12

新たな教育の現場は、教育の体制づくりから地道に行わなければならないことが語られており頭がさがります。肌で感じる学生の反応なども可能な範囲でお話し頂きたいと思いました。

投稿者: fur

投稿者: 古川達也 | 2007年12月14日 02:13

私が某学科の助手に在籍していたとき、T定規から平行定規に変更したい旨、教室会議に申し込んだとき、「同じ線が簡単に引けるので画一的になる」「T定規の揺れ具合に味がある」等、猛反対を受けました(CAD導入反対意見も同様です)。
データを入力するのは人間であるからという理由でCADをツールとして認める人もいますが、「ツールが変われば思考方法がかわる」という点は認めません。CADと製図板は単なる製図清書としてのツールとしての変化ではなく、建築教育の基本にかかわると思っています。人間の頭脳にストックされているデータ(実はデジタルです)をいかに関連付け、アウトプット(人間の手と紙によるものは最高です)をするかです。関連付けこそ「教育」ではないでしょうか。CADと製図板の違いはこの点が問われていたと思っています。

更に、現在登場した「3次元ObjectCAD」は、「建築(設計)教育」の根本の変化を促すツールであることを考える必要があると思っています。
世間では「3DCAD」と言われていますが、CADが登場し、CGが一般に使われ始めたとき、私たちは通常のCADを2次元CAD、CGを3次元CADと区別してきた。しかし、現在は紛らわしい「3DCAD」が建築界で一般化している。「3DCAD教育」をしていると言っている大学のほとんどが「CG教育」であるのが現状です。世間に知らせる立場にある人はきちんと言葉を定義してほしい。

投稿者: 衣袋洋一 | 2007年12月14日 07:14

コメントを投稿

(いままで、ここでコメントしたことがないときは、コメントを表示する前にこのブログのオーナーの承認が必要になることがあります。承認されるまではコメントは表示されません。そのときはしばらく待ってください。)

名前:

メールアドレス:

URL:

この情報を登録しますか?

コメント: (スタイル用のHTMLタグが使えます)

[トップ](#)

Autodesk® Buzzsaw
を活用した

前田建設工業は
120店舗の外食チェーンの
同時改裝を
10日間で実施

その秘訣はこちらへ
無償試用版も好評公開中

Autodesk®

3次元CADデータから
着色済み立体地図を自動作成

最新モデルGシリーズ登場
ワイドフォーマットスキャナ

マンション管理は

管理人イエイリが
建設ITを斬る
(ハナー広告などの詳細はこちらまで)

最近のエントリー

- 道の駅も意外な穴場！タダで使える無線LANはここで探せ
 - ↳ kaz at 2007.12.21
- 1ワット当たり1ドルを切った！太陽光発電もコスト競争時代に
 - ↳ k.kudou at 2007.12.20
 - ↳ イエイリ at 2007.12.20
 - ↳ Kaz at 2007.12.20
 - ↳ イエイリ at 2007.12.20
- 2万円を切った両面印刷のレーザープリンタを発売
- 「不都合な真実」を脱却？アルゴア氏邸の省エネ改修工事は今日も進む
 - ↳ Kaz at 2007.12.18
 - ↳ k. h at 2007.12.18
- 1/24～25、東京で「CALs/EC MESSE 2008」を開催
- 3次元CADでコラボも！「製図板のない建築設計教育」を実践



イエイリ建設ITラボ



プレスリリースなどはこちらまで >> ☒

検索

プロフィール

[ユビキタス・アイ](#)
[マンスリー・レポート](#)
[建設IT実験隊](#)
[ケースレポート](#)
[キーワード](#)
[建設3次元まつり](#)

トップ

 マンスリー・レポート

3次元CADでコラボも！「製図板のない建築設計教育」を実践 【第3回】ロンドンの講師も参加！チャットで進行するデザイン演習

芝浦工業大学の衣袋(いたい)洋一教授は、「製図板のない建築設計教育」をキャッチフレーズに、3次元CADやコンピュータグラフィックス(CG)を駆使した教育に力を入れてきました。現在では、120台のパソコンを備えたCAD教室のほか、Revit Architecture、Bentley Architecture、ArchiCADなどのビルディング・インフォメーション・モデリング(BIM)対応ソフトを活用したコラボレーションの実習も行っています。大学におけるCAD教育の現状をお聞きしました。



芝浦工業大学
システム工学部環境システム学科
教授

衣袋 洋一 氏

衣袋研究室のホームページ
<http://www.itailab.se.shibaura-it.ac.jp/>

——芝浦工業大学のCAD教育のカリキュラムはどのような内容になっているのでしょうか。

衣袋 まず、1、2年生の間に、情報処理の基本や、建築図面を使った授業で建築とはどんなものかを理解してもらいます。

1年生では、情報処理の理論面を学ぶ「情報処理」とその演習を行う「情報処理演習」という授業が前期、後期にそれぞれあります。ワープロや表計算、プレゼンテーションソフトなど、基本的なビジネスソフトやインターネット、メールの扱い方を学びます。

また、1年生の後期では「基礎実技」という授業があり、手書きによる図面作成を行います。プロが描いた建物の図面を30枚ほど学生に渡すのですが、平面詳細図だけが入っていない。その平面詳細図を参考資料、参考図面に描かれた出入り口の平面図などを参考に、自分で考えながら完成させるというものです。

2年生になると、いよいよ前期で「建築設計情報」という授業で2次元CADによる図面作成を学びます。そして、後期の「建築設計リテラシー」では、BIM対応の3次元CADによる設計の訓練を行います。

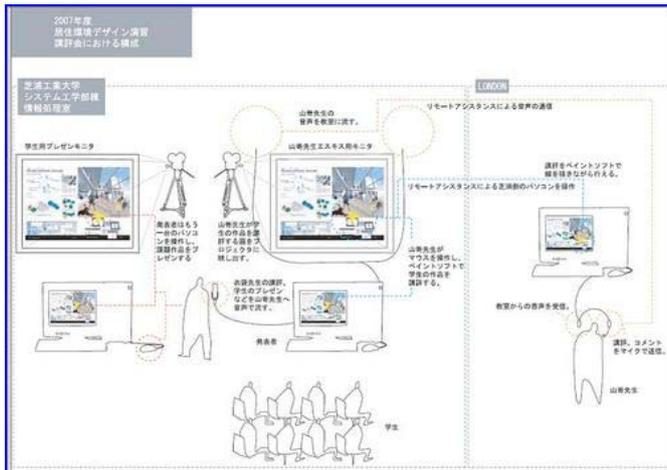
——1、2年生だけでも、かなり実務的な内容を含んだ授業で、3次元CADの使い方までマスターできてしまいますね。3年生になると、どういう授業になるのでしょうか。

衣袋 3年生の前期では、「居住環境デザイン演習」という授業があり、2つの課題に取り組みます。第1課題においては個人設計で、約240M²くらいの住宅を設計します。デジタル、e-Learningだからできることですが、ユニークなのは授業方法です。実社会同様、施主と事務所とのやりとりで設計を進めます。大学院生が「施主役」、受講生が「事務所スタッフ」、ロンドン在住の建築設計事務所で活躍している非常勤講師の山崎一也先生と私が「現場所長役」となって参加します。学生はもちろん、建築家の役割ですが、施主が誰なのかはわからないようになっていきます。

建物を建設する敷地は、実在するものです。学生はその周辺環境を現地調査したり、施主役から家族構成やライフスタイル、建物に対する要望を聞いたり、現場所長役から工期やコストなどに注文を付けられたりします。こうして、いろいろな情報を処理したり、調整したりしながら、学生は自分の設計を提案します。



第2課題は協同設計です。グループごとに共通のテーマを2週間で決定し、その後、そのテーマをもとにグループ提案ができる図面を「個人設計」として行います。基本的な授業は個人提案で終了しますが、最終授業の講評会においてグループの最終提案図面を話し合い、投票という順番で決定します。本当は、その図面をもとに最終図面を作成してほしいのですが授業時間の関係でそこまで求めています。



敷地番号	C	J
学生		
施主名	レンゾ・ピアノ	リチャード・ロジャース
担当院生		
テーマ	土いじりができる家	日向ぼっこの家
家族構成 趣味	夫 (50) 妻 (45) 長女 (19) 次女 (17) 長男 (14) 趣味 : 夫婦ともに土いじりが趣味 施主の要求 : 近所の人たちと仲良くしたい。土いじりを通して近所の人たちと仲良くなりたい。	夫 (60) 無職 (定年退職) 妻 (60) 主婦 長男 (30) 会社員 次男 (25) 会社員 趣味 : 家族全員が日向ぼっこ
要望	土いじりをする空間	施主の要求 : 気持ちよく日向ぼっこできる空間と2世帯住宅を見据えての空間づくり各個人の部屋 日向ぼっこできる場所

居住環境デザイン演習のシステム(上)と「施主」からの要望などの例(下)

——ロンドンにいる非常勤講師の先生が授業に参加するとは、どのような方法をとっているのですか。

衣袋 インターネットでチャットをしながら進めるんですよ。毎週木曜日の午後4時から6時の間は「総合ミーティング」として、学生や指導する院生、講師が全員ネット上に集合して、各自のプロジェクトについて進捗状況を報告したり、意見を述べ合ったりします。

つまり、ロンドンにいる非常勤講師の山崎先生は大学に出なくても、授業に参加できるのです。この授業を実現するために大学にかけ合って「WEB型非常勤講師」という新しいポストを、認めてもらいました。

このほか、学生は週に1時間、講師陣と個別にアポをとって、自分のプロジェクトを進めていきます。アポ取りも、インターネットの掲示板で行い、その時間にパソコンに向かってディスカッションするという仕組みです。いわば「非同室、同期型」の授業ですね。

学期の最後には作品発表会を行います。教室とロンドンを回線をつないで、同時に作品のプレゼンテーションを見ながら、山崎先生がロンドンから音声で講評を送ってくれます。



(次回は12月25日に掲載します)

2007年12月17日 09:44 | パーマリンク

トラックバック

このエントリーのトラックバックURL:

<http://blog.nikkeibp.co.jp/cgi-bin/mt/mt-tb.cgi/153484>

コメント

いつも大変興味深く拝見しております。
紹介されていたカリキュラムの内容は、私が学生時代では学べなかった事で、
社会において独学で実践してきた内容(流れ)に近い所があり、学校でこの内容が
学べる事は大変価値の在ることだと思います。
単に課題を提示すると言うのではなく、現地調査やヒアリングを盛り込み、実際の
業務に近い内容が経験できる事も貴重だと思います。

そちらの研究室では、PDFも有効的に活用し情報の共有化等も図るなど、色々な
事を試し表現方法を検討しており、また次回が楽しみです。

投稿者: kaz | 2007年12月17日 11:17

私は、衣袋先生の教え子でもあり、webによる授業にも参加しているものです。現在ゼネコンの設計部に在籍しています。卒業して20年がたとうとしていますが、取り巻く環境が多様化する設計の現場では、図面表現のスキルが問われるだけでなく、関係者を取りまとめるコミュニケーションスキルが重要な能力として位置づけられています。ここで紹介されている「授業」は従前の教える教えられるという枠組を超えた、「ともに学んで成長する」システムであり、アナログ/デジタルの融合による新時代のコミュニケーションスタイルそのものを提示しています。学生、教員、社会人の線引きもなく、「目的」の共有と解決の紐解き、社会への提示まで、「新時代のものづくり行為」を示唆するものだと感じています。社会人でいながらもこの実践に触れられるテクノロジーの発展と研究室の皆様のご努力に感謝しています。

投稿者: 澤田英行 | 2007年12月22日 11:45

kazさん、澤田さん、コメントありがとうございました。

衣袋先生のインタビュー記事は、現役の学生さんだけでなく、OBの方も見て頂いているようで、取材した私もうれしいです。

大学教育も、同じことを教えるとしても、実務の流れに即した教育方法だと、それぞれの内容の位置づけや重要性が立体的にわかるので理解も早く、身にもつきそうですね。

社会科学などでは「フィールドワーク」ということがよく取り入れていますが、工学系の分野も同様のことをどんどん行っていくべきでしょう。衣袋先生のIT教育はそれを実践しているように思いました。

投稿者: イエイリ | 2007年12月22日 16:38

コメントを投稿

(いままで、ここでコメントしたことがないときは、コメントを表示する前にこのブログのオーナーの承認が必要になることがあります。承認されるまではコメントは表示されません。そのときはしばらく待ってください。)

名前:

メールアドレス:



イエイリ建設ITラボ



プレスリリースなどはこちらまで >> ✉

検索

プロフィール

ユビキタス・アイ マンスリー・レポート 建設IT実験隊 ケースレポート キーワード 建設3次元まつり

トップ

▼ マンスリー・レポート

3次元CADでコラボも！「製図板のない建築設計教育」を实践 【第4回】大学でのIT、CAD教育はどうあるべきか

芝浦工業大学の衣袋(いたい)洋一教授は、「製図板のない建築設計教育」をキャッチフレーズに、3次元CADやコンピュータグラフィックス(CG)を駆使した教育に力を入れてきました。現在では、120台のパソコンを備えたCAD教室のほか、Revit Architecture、Bentley Architecture、ArchiCADなどのビルディング・インフォメーション・モデリング(BIM)対応ソフトを活用したコラボレーションの実習も行っています。大学におけるCAD教育の現状をお聞きました。



芝浦工業大学
システム工学部環境システム学科
教授

衣袋 洋一 氏

衣袋研究室のホームページ
<http://www.itailab.se.shibaura-it.ac.jp/>

——学生さんが効果的にITやCADをマスターできるように教育するには、どのような方法がいいと思われますか。

衣袋 私はあまり親切な先生ではないので、ソフトやハードを自由に選んで使える環境を学生に与えた後は、手取り足取り指導することはありません。すると、学生の方が自主的にCADやソフトの使い方をどんどん覚えていくのです。わからないときは、聞きに来ると教えるという方法が基本です。

3次元CADソフトも、Revit Architecture、Bentley Architecture、ArchiCADの中から自由に選んで使わせています。すると、途中で使うCADが変わっていたりして。

——大学教育でCADを使うことに対する考え方は、以前と今とでどう変わってきていますか。

衣袋 以前はパースの作成や製図にCGやCADを使うと、どの学生もきれいに描けるので、差が付けられない、といった意見もありました。そのため、CADを使った学生は最高の点を付けたり、逆に低い点を付けたりと、教える側にもCADに対する迷いがあったように思います。

私の考えは、設計者の考えがちゃんと情報として表現され、施主や施工者などに伝えられているかどうかの問題だということです。今の建築においては、図面がいかに美しく描けるかよりも、情報処理の方が大事だと思っています。情報処理の結果が、「図面」という言葉で表現されているだけで。

カラスロやロットリングで図面を描いていた時代は、「いかにきれいに線が引けるか」ということも評価の対象となりましたが、今は作図自体はプロッターでできるのですから、線の持っている意味を理解して太線、細線、切断線などを適切に使い分け、正確に表現できる能力が大事です。CAD教育も、このような考え方を基本に行う必要があります。



大宮区役所で開催された「学生と大宮東口商店街のコラボレーション2007」発表会(写真:衣袋洋一教授)

——施主や地域からもたらされる様々な要望や制約条件などの情報を処理ながら、実際の建物に結実させていく能力が、これからの建築家には大事なですね。

衣袋 そのため、建築設計の実習では、地元の商店街に出かけて行ったりしています。例えば、2年生の実習では、地元のさいたま市内の大宮東口商店街とコラボレーションして、アーケードを撤去した場合の商店街イメージの検討や、クリスマスシーズンのイルミネーションの設計などを授業で行っています。

その結果、設計を行った際に住民や施主に対する説明責任があることや、現地に行ってみないとわからない制約条件があったりすることを、学生は身をもって体験します。私は「5W1H2F」が大事だと、よく学生に言っています。

最初の「5W1H」は言うまでもなく、Who(誰が)、What(何を) When(いつ) Where(どこで) Why(どうして)とHow(どのように)ですが、後の「2F」とは「For anything(何のために)」と「For anyone(だれのために)」という意味です。

設計の意図を、このような要素を含めて説明できることが、これからの建築家には求められているのではないのでしょうか。ただ、社会に出れば否応なしに、制約条件だらけのところでの建築の設計をやらざるを得ませんから、学生の間には制約のない環境の中で、自由な設計の機会を与えることにも、心を配るようにしています。



(終わり。次回は1月7日に掲載します)

2007年12月25日 00:00 | パーマリンク

トラックバック

このエントリーのトラックバックURL:

<http://blog.nikkeibp.co.jp/cgi-bin/mt/mt-tb.cgi/153485>

コメント

机上だけではなく、現実の設計体験をする事で「コミュニケーション能力」を培う事が出来る事が設計する上で、非常に重要なファクターを占めています。学生時代の実習程、色々な意見を交わせる場所はないので大いにこの環境を利用し、学生側からの提案が多く出てくると面白いですね。

投稿者: kaz | 2007年12月25日 08:50

kaz様。第1回から最終回までのコメントありがとうございました。参考になりました。今後とも、前向きな建築設計教育に取り組んでいきたいと思っています。

投稿者: 衣袋洋一 | 2007年12月26日 05:32

衣袋様。こちらこそありがとうございました。
大変楽しい内容でした。
また何かの機会にこのようにコメントが交わせる事を楽しみにしております。

投稿者: kaz | 2007年12月26日 08:16

kaz様、衣袋先生、皆さま

これほど、コメントを多くいただいたインタビューの記事も初めてだったのではないかと思います。

建設業界がいよいよ3次元による設計や3DオブジェクトCADの活用により、インテグレートされた仕事のやり方を本格化するなか、衣袋先生のIT教育と卒業生のスキルが注目されているというところでしよう。

これからも、建築IT界に「衣袋節」で新風を吹き込んでいただけることを期待しています。

投稿者: イエイリ | 2007年12月26日 09:42

コメントを投稿

(いままで、ここでコメントしたことがないときは、コメントを表示する前にこのブログのオーナーの承認が必要になることがあります。承認されるまではコメントは表示されません。そのときはしばらく待ってください。)

名前:

メールアドレス:

URL:

この情報を登録しますか?

コメント: (スタイル用のHTMLタグが使えます)

[トップ](#)

最近のエントリー

- グーグルアースで宇宙飛行士の気分を！スペースシャトル体験も簡単
- グーグルアースが見事に1位！窓の社が2007年の大賞を発表
 - └ kaz at 2007.12.25
 - └ グーグルアースで宇宙旅行！ at 2007.12.26
- 3次元CADでコラボも！「製図板のない建築設計教育」を実践